

関西エアポート株式会社 第1期期末決算は増収増益！

関西エアポート株式会社は、2015年12月から2016年9月までの第1期会計年度において、営業収益として891億円を計上したことをお知らせします。昨年度の新関西国際空港株式会社の上半期の営業収益と比較すると、実質2.9%の増加*となります。経常利益は実質2.6%増*となりました。

代表取締役社長 CEO の山谷佳之は、次のようにコメントしています。

「関西エアポートとしての初めての決算が、収益、利益ともに好調に推移したと発表できることをうれしく思います。外国からのお客様が過去最高を記録するなど、関西国際空港の旅客数が増加し、大阪国際空港でも旅客数が順調に推移したことが要因です。今後も空港機能の向上に注力し、関西経済に貢献したいと考えています。」

*関西エアポートと新関西国際空港株式会社では会計基準が異なるため、比較可能な数値に調整したうえでの比較を行っていますのでご了解ください。

経営成績（2015年12月～2016年9月）

【単位:億円】	第1期 (2015.12-2016.9)	(2015.12-2016.3)	(2016.4-2016.9)
営業収益	891	-	891
外部費用	503	7	497
EBITDA	388	(7)	395
減価償却費	193	-	193
営業利益	195	(7)	202
経常利益	115	(28)	143
当期純利益※	75	(19)	93

※「当社株主に帰属する当期純利益」は73億円。

2016年3月までの関西国際空港・大阪国際空港の運営を開始するまでの準備経費として19億円の当期純損失を計上いたしましたが、2016年4月以降の両空港の運営により、航空需要が堅調に推移したこともあり、93億円の当期純利益となり、第1期としては、75億円の当期純利益を計上しました。

代表取締役副社長 CO-CEO のエマヌエル・ムノントは、次のようにコメントしています。

「私どもは、堅調な航空需要を背景に、運営初年度から順調な発展をすることができました。私たちは今後も、顧客満足度を最大化し、より多くのお客様に空港をご利用いただくだけでなく、地域経済に対して重要かつ大きな役割を果たすよう努めてまいります。」

(航空需要の状況)

韓国・台湾を含むアジア方面で、国際線旅客便が増加した結果、2016年上期(4~9月)の航空機発着回数は、関西国際空港では、年度上半期としては過去最高となりました。大阪国際空港では、ほぼ前年並みとなりました。

航空旅客数は、関西国際空港では、昨年につき、国際線外国人旅客数が前年を上回る形で好調に推移したこともあり、年度上半期として過去最高を記録しました。また、大阪国際空港では、2年ぶりに前年を上回りました。

	2015.4-2015.9	2016.4-2016.9	増減	増減率
航空機発着回数(万回)	15.4	16.0	0.6	4%
KIX	8.3	9.0	0.6	7%
ITM	7.0	7.0	(0.1)	(1%)
航空旅客数(万人)	1,933	2,030	97	5%
KIX	1,198	1,281	83	7%
ITM	735	750	15	2%

(貸借対照表)

2016年9月30日現在における財政状態は、資産合計は1兆8,657億円となっており、このうち約8割が公共施設等運営権(固定資産)となっております。また、負債合計は1兆8,085億円となっておりますが、このうち、約8割が新関西国際空港株式会社(NKIAC)への長期末払金(固定負債)となっております。

【単位：億円】	2016.9.30 現在
流動資産	2,310
固定資産	16,347
資産合計	18,657
流動負債	588
固定負債	17,497
負債合計	18,085
株主資本	573
その他の包括利益累計額	(9)
非支配株主持分	8
純資産合計	572
負債・純資産合計	18,657

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
コーポレートコミュニケーション部 広報グループ
Tel : 072-455-2201

連結損益計算書

〔 自 平成27年12月1日
至 平成28年9月30日 〕

(単位：百万円)

営業収益		89,122
営業原価		55,642
営業総利益		33,479
販売費及び一般管理費		13,948
営業利益		19,531
営業外収益		652
受取利息及び配当金	447	
持分法投資利益	67	
その他の営業外収益	138	
営業外費用		8,674
支払利息	6,530	
支払手数料	2,045	
その他の営業外費用	98	
経常利益		11,509
特別利益		4
投資有価証券売却益	4	
固定資産売却益	0	
特別損失		145
固定資産除却損	84	
投資有価証券売却損	3	
減損損失	57	
税金等調整前当期純利益		11,368
法人税、住民税及び事業税	6,836	
法人税等調整額	△2,922	3,914
当期純利益		7,454
非支配株主に帰属する当期純利益		135
当社株主に帰属する当期純利益		7,318

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結貸借対照表

〔平成28年9月30日現在〕

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	231,009	流 動 負 債	58,794
現金及び預金	82,178	買掛金	2,602
売掛金	8,880	未払金	37,608
商品	3,776	未払費用	3,333
原材料及び貯蔵品	1,089	1年内返済予定の長期借入金	3,008
1年内回収予定の 差入保証金	13,089	未払法人税等	7,193
未収消費税	111,670	賞与引当金	968
繰延税金資産	2,700	ポイント引当金	64
その他	7,623	その他	4,015
固 定 資 産	1,634,681	固 定 負 債	1,749,745
有形固定資産	18,641	社債	4,860
建物及び構築物	3,984	長期借入金	199,754
機械装置及び運搬具	6,985	繰延税金負債	91
土地	604	特別修繕引当金	24,312
建設仮勘定	3,096	退職給付に係る負債	3,118
その他	3,969	長期未払金	1,509,220
無形固定資産	1,470,590	その他	8,389
公共施設等運営権	1,469,943	負 債 合 計	1,808,540
その他	646	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	145,450	株主資本	57,318
投資有価証券	1,358	資本金	25,000
退職給付に係る資産	191	資本剰余金	25,000
繰延税金資産	2,034	利益剰余金	7,318
差入保証金	141,491	その他の包括利益累計額	△ 939
その他	376	その他有価証券評価差額金	△ 41
貸倒引当金	△ 3	繰延ヘッジ損益	△ 897
		非支配株主持分	770
		純 資 産 合 計	57,150
資 産 合 計	1,865,690	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,865,690

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

関西エアポート株式会社 について

関西エアポート株式会社は、関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITM）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しました。関西エアポートは、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。

関西エアポートは、両空港の安全とセキュリティを常に最優先しつつ、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化し、両空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへ貢献することを目標としています。

関西エアポートは、2015年12月15日付けで新関西国際空港株式会社との間で、事業期間を44年とする「関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約」（実施契約）を締結しています。詳しくは、関西エアポート株式会社ホームページ：www.kansai-airports.co.jp/をご参照ください。

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	資本金	250億円
代表者	代表取締役社長 山谷 佳之 代表取締役副社長 エマヌエル・ムノント	設立年月日	2015年12月1日
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等	株主	オリックス 40%、ヴァンシ・エアポート 40%、その他の出資者 20% ¹



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界36カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。

2014年に50周年を迎え、これからも経営戦略である「金融+サービス」の加速化、「アジア等新興国の成長を取り込む」を推進し、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を目指すと同時に、社会に貢献してまいります。



ヴァンシ・エアポートは、国際空港運営における世界上位5社のうちの1社として、フランスで13、ポルトガルで10（リスボンのハブ空港を含む）、カンボジアで3、日本で2、ドミニカで6、そしてチリで1空港の合計35空港の開発および運営を行っています。ヴァンシ・エアポートは、運営する空港ネットワークの年間利用者数は1.3億人にのぼり、170社を超える航空会社が就航しています。

ヴァンシ・エアポートは、深い知見と、プロフェッショナリズムあふれる世界各国の10,600名のスタッフの力を合わせ、その投資力や国際ネットワーク、既存空港のインフラ運営最適化、施設の拡充、新規建設における専門性を活かし、空港の開発、資金調達、建設、および運営を行っています。詳細につきましては、www.vinci-airports.comをご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジェイティービー、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レノゴ株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2016年9月期 期末決算

記者会見：2016年12月8日

関西エアポート株式会社
Kansai Airports



アジェンダ

決算ハイライトと私たちが大切に考えていること

営業収益分析と投資

コンセッションに係る要件

2016年9月期 期末決算の概要

2015年度新関西国際空港（NKIAC）中間決算との比較

参考 1: 当社が運営を開始するまでの経緯

参考 2: コンセッションに関連する会計処理



The airport that moves you 24/7

Filling the heart, nearby home

KIX ITM

決算ハイライトと 私たちが大切に考えていること

営業収益は891億円、当期純利益は75億円を計上

✈ 2015年12月1日 関西エアポート（株）設立

- 12月～3月 運営開始までの準備期間
- 4月1日～ 両空港の運営開始

✈ 営業収益は891億円

✈ 経常利益は115億円

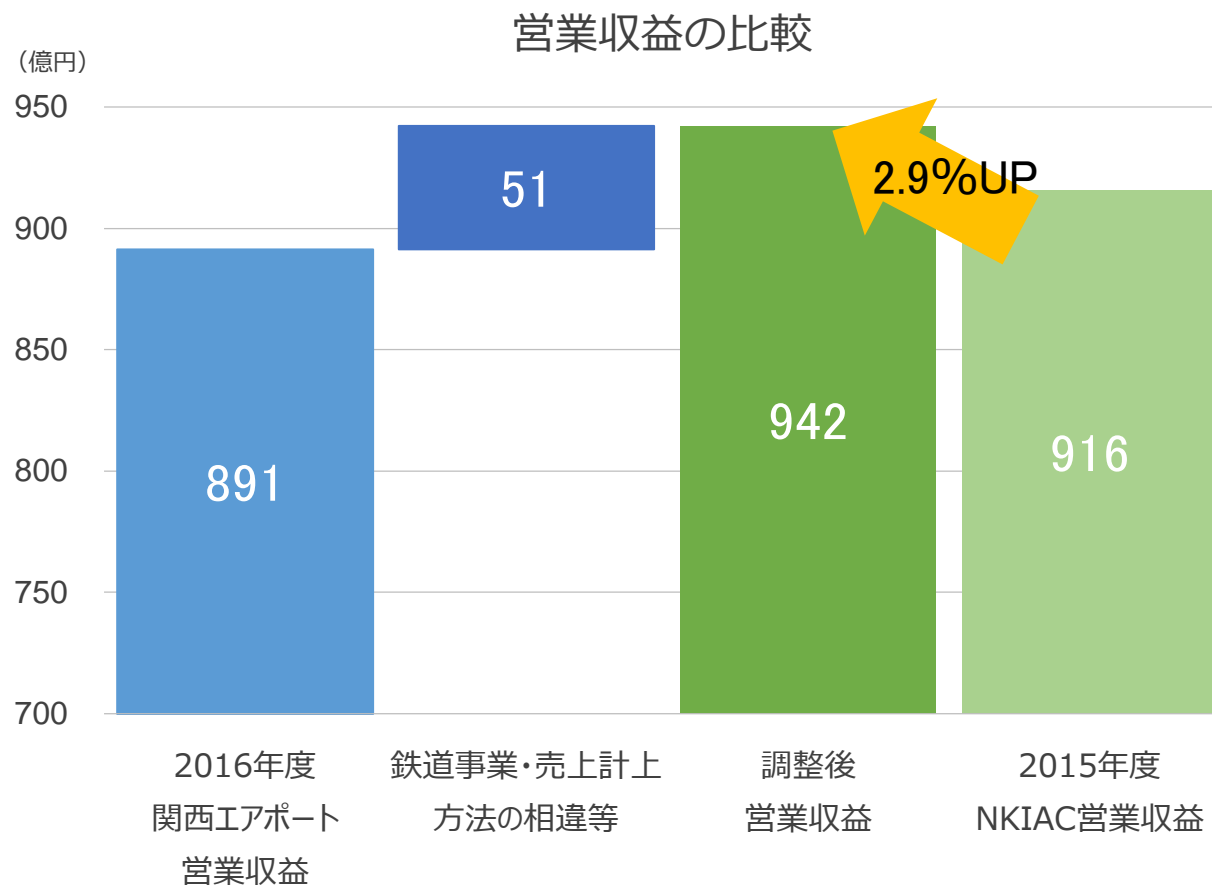
✈ 当期純利益は75億円

✈ 44年間に亘る運営の順調なスタートとなった

	第1期 (2015.12- 2016.9) (億円)
営業収益	891
EBITDA	388
経常利益	115
当期純利益	75

比較可能な数値に調整した前年度比較では、**営業収益は2.9%の増加、経常利益は2.6%の増加**

- ✈ 新関西国際空港株式会社（NKIAC）との単純比較は困難であるため、コンセッションに関する影響等を加味して比較
- ✈ 調整後では、営業収益は前年比2.9%増加、経常利益は2.6%増加
- ✈ 関西国際空港の国際線外国人旅客が過去最高を記録するなど、関西国際空港の旅客数が好調であったことによる増加



私たちが大切に考えていること

✈️ 安全・安心を最優先とした空港運営

- 今後も安全・安心を最優先にアジアの成長を取込む
- 関西国際空港第2ターミナルビルの拡張では、最先端のセキュリティー設備を導入



✈️ 私たちの順調な空港運営は、関西経済界や関係者皆様のご協力によるもの

- 関西地域全体の経済成長に貢献できるよう努めます



✈️ “ONE”関西エアポートグループ

- 関西地域における1つの空港システム





The airport that moves you 24/7

Filling the heart, nearby home

KIX ITM

営業収益分析と投資

過去最高となった 発着回数・旅客数が増収の要因

- ✈️ 関西国際空港の発着回数は7%増、旅客数は7%増
 - ✈️ 発着回数の増加 — 年度上期過去最高を記録
 - ✈️ アジア方面からの国際線旅客数増加
 - ✈️ 旅客数は年度上期として2年連続で過去最高を更新
- ✈️ 冬期スケジュールでは新規就航や新規路線を計画
- ✈️ 成長戦略
 - ✈️ アウトバウンド需要の促進
 - ✈️ 魅力ある中・長距離路線の拡大
 - ✈️ 戦略的な着陸料体系の導入

航空需要

	2015.4 ~ 2015.9	2016.4 ~ 2016.9	増減	%
発着回数 (万回)	15.4	16.0	0.6	4%
KIX	8.3	9.0	0.6	7%
ITM	7.0	7.0	(0.1)	(1%)
航空旅客数 (万人)	1,933	2,030	97	5%
KIX	1,198	1,281	83	7%
ITM	735	750	15	2%

投資計画

- ✈️ 航空需要の増加に合わせ、設備投資（CAPEX）を進めます
- ✈️ 5年間（2016~2020年度）で総額932億円の投資を計画しています
- ✈️ 安全・安心のための投資はもちろんのこと、関西国際空港及び大阪国際空港を世界水準の空港にするための投資をおこないます
 - 関西国際空港第2ターミナルビル拡張
 - スマートレーンの導入
 - 「ウォークスルー」型ショッピングエリアの導入
 - 大阪国際空港ターミナルビル改修
 - 法規制に対応するための投資





The airport that moves you 24/7

Filling the heart, nearby home

KIX ITM

コンセッションに係る要件

コンセッションに係る要件

事業期間 : 2016年4月1日 ~ 2060年3月31日 (44年間)

✈ 運営権対価及び関連する費用

- 1) 運営権対価 (年額) 37,275,000,000円
- 2) 固定資産税等負担金 (実費相当)
- 3) 収益連動負担金 認定収益のうち、1,500億円を超過した部分の3%
(ただし、株主に還元可能な資金の6%以内)
- 4) 運営権者譲渡対象資産の譲渡対価 31,400,000,000円

✈ 履行保証金の額 175,000,000,100円



The airport that moves you 24/7

Filling the heart, nearby home

KIX ITM

2016年9月期 期末決算の概要

経営成績

項目	第1期 (2015.12- 2016.9) (億円)
営業収益	891
航空系	348
非航空系	544
EBITDA	388
営業利益	195
当期純利益 ※	75

※「当社株主に帰属する当期純利益」は73億円

航空系： 着陸料、停留料、保安料、旅客サービス施設使用料（PSFC）、旅客保安サービス料（PSSC）、手荷物取扱施設（BHS）使用料、搭乗橋施設（PBB）使用料、給油受託収入

非航空系： 直営事業収入（免税・物販等）、建物・土地貸付料収入、駐車場使用料 等

経営成績

項目	第1期 (2015.12-2016.9) (億円)	2015.12-2016.3	2016.4-2016.9
営業収益	891	-	891
営業費用（減価償却費除く）	503	7	497
EBITDA	388	(7)	395
減価償却費	193	-	193
営業利益	195	(7)	202
経常利益	115	(28)	143
当期純利益	75	(19)	93

- ✦ 会社設立から、両空港の運営を開始するまでの準備経費により、2016年3月までに19億円の当期純損失を計上
- ✦ 2016年4月に両空港の運営を開始して以降、航空需要が堅調に推移したこともあり、2016年4月から9月までの間では、93億円の当期純利益を計上

財政状態

貸借対照表

	2016.9.30現在 (億円)
流動資産	2,310
固定資産	16,347
資産合計	18,657
流動負債	588
固定負債	17,497
負債合計	18,085
株主資本	573
その他の包括利益累計額	(9)
非支配株主持分	8
純資産合計	572
負債・純資産合計	18,657

公共施設等運営権
14,699

長期未払金
15,092



The airport that moves you 24/7

Filling the heart, nearby home

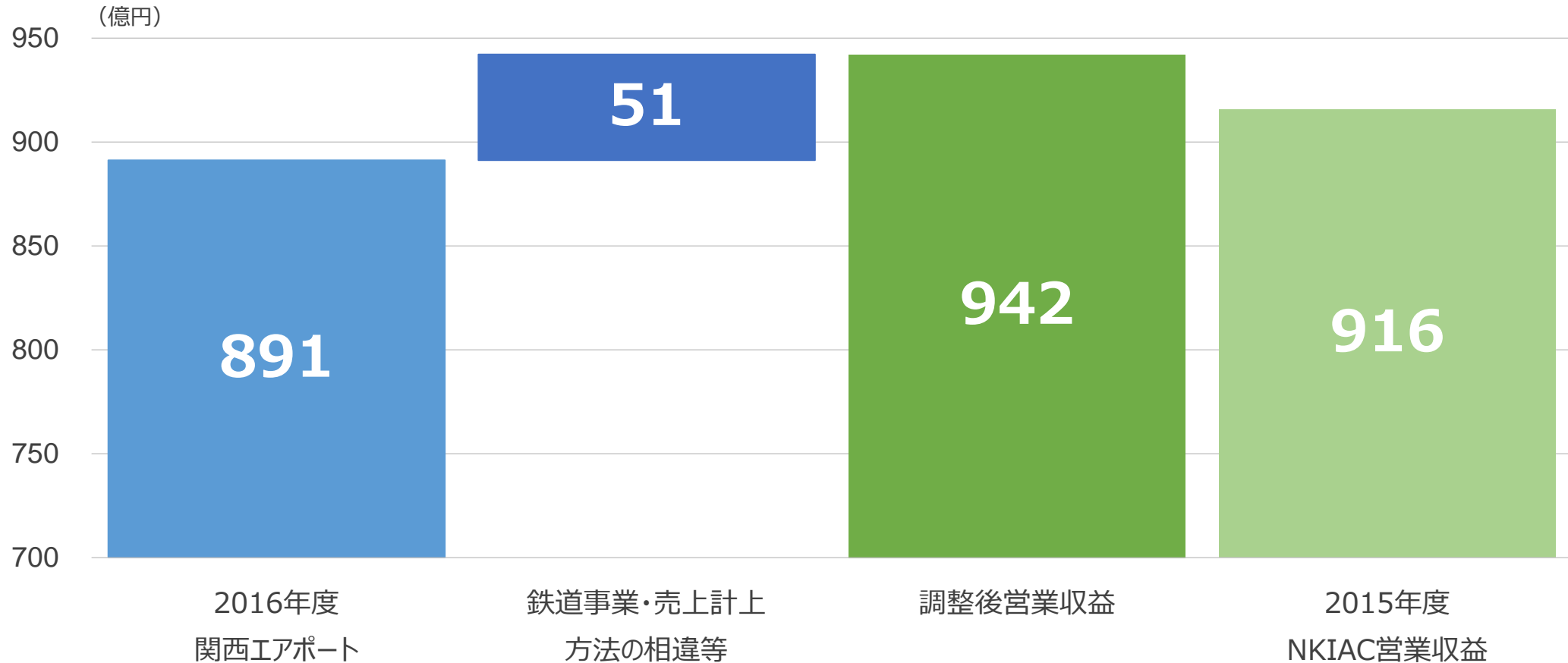
KIX ITM

2015年度 新関西国際空港 (NKIAC) 中間決算との比較

比較可能な数値に調整した前年度比較では、 営業収益は2.9%増加

営業収益における比較

(鉄道事業がなくなったこと、直営事業の売上計上方法が異なること等を考慮)

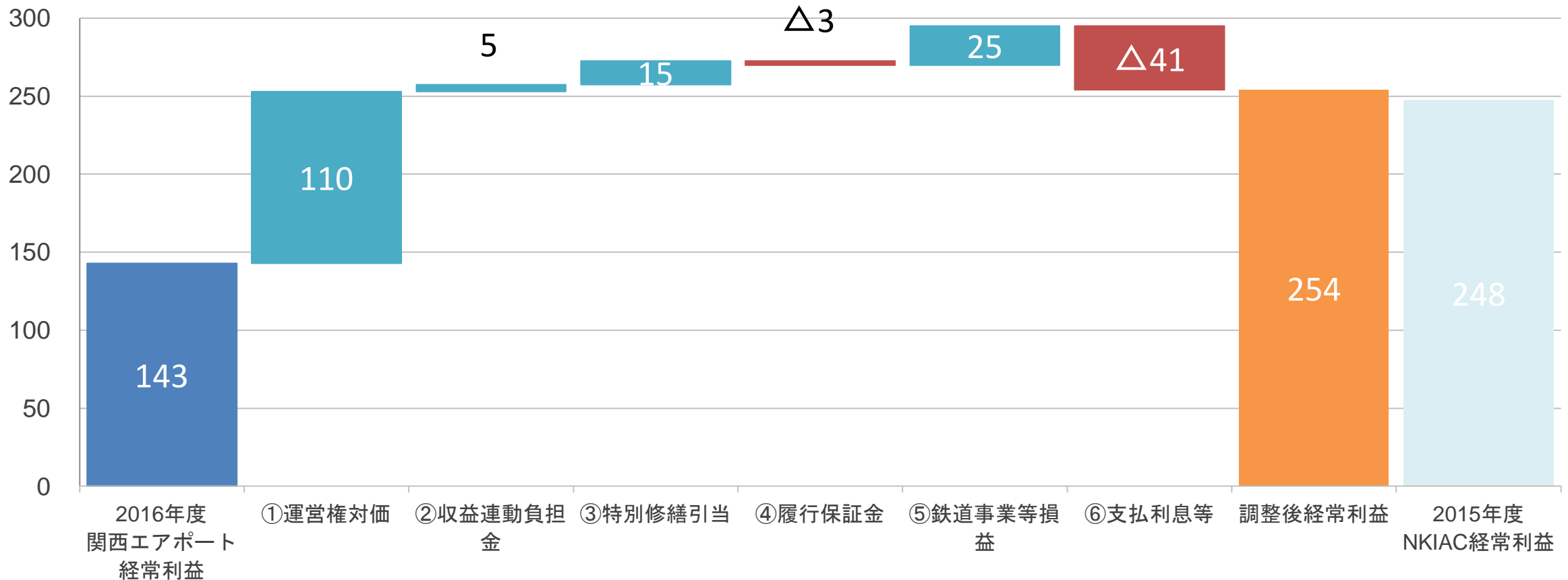


比較可能な数値に調整した前年度比較では、 経常利益は2.6%増加

経常利益における比較

(コンセッションに関する会計処理や、鉄道事業がなくなったこと、資金調達構造が異なること等を考慮)

(億円)





The airport that moves you 24/7

Filling the heart, nearby home

KIX ITM

参考 1:当社が運営を開始するまでの経緯

当社が運営を開始するまでの経緯

1994年9月

関西国際空港 開港
(設置・管理：関西国際空港株式会社(KIAC))

空港を海上建設したことにより、多額の建設費を要した



KIACは2010年度末時点で、約1兆3千億円の債務を抱えることとなった

国際拠点空港としての本来の優位性を活かした戦略的な経営や前向きな投資の実行が困難

当社が運営を開始するまでの経緯

2011年5月

関西国際空港及び大阪国際空港の一体的かつ効率的な
設置及び管理に関する法律 成立

- ✦ これまで国が管理していた大阪国際空港とともに一体的に両空港を管理
- ✦ コンセッションを実施し、関西国際空港の整備に要した債務の早期の確実な返済を図る



関西国際空港を国際拠点空港として再生・強化を図るとともに、両空港の適切かつ有効な活用を通じ、関西の航空輸送需要の拡大を図り、関西の経済の活性化に寄与する

当社が運営を開始するまでの経緯

2012年4月

新関西国際空港株式会社（NKIAC） 設立

2012年7月

NKIACのもと、両空港の経営統合

2014年7月

NKIACがコンセッション実施に向け、応募受付・審査等の手続き開始

2015年12月

関西エアポート株式会社 設立

2015年12月

NKIACとの実施契約の締結

2016年4月

当社が両空港の運営を開始



The airport that moves you 24/7

Filling the heart, nearby home

KIX ITM

参考 2: コンセッションに関連する会計処理

コンセッションに関連する会計処理:

① 運営権対価

- ✦ NKIACに支払う運営権対価は、毎年373億円となっていますが、この支払額が直接費用として計上されるものではありません。
- ✦ 今後の運営権対価の支払スケジュール（毎年度373億円のキャッシュアウト）をもとに、これを現在価値に割引いた金額（1兆4405億円）を公共施設等運営権という無形資産に計上し、44年に亘り均等償却を行います。一方、割引かれた金額（1996億円）については、運営権対価の支払いが進むほど減少する支払利息として費用計上を行います。



- ✦ この結果、事業開始当初は費用計上額が毎年の支払金額を上回り、事業期間の終盤には逆に下回ることとなります。

コンセッションに関連する会計処理:

① 運営権対価 (2)

✈ 運営権（無形固定資産）の減価償却及び支払利息（2016.4～2016.9）

- 当該期間に費用計上している金額は、運営権取得に要した付随費用の償却費を含めて、減価償却費で174億円、支払利息で43億円となっています。

✈ 以上のとおり、多額の運営権対価に関する費用を計上する一方で、コンセッションにおいては資産の大部分は引き続きNKIAC所有となっているため、当社グループの所有資産から生じる減価償却費は14億円と、昨年度のNKIACグループ決算値（121億円）からは大幅に減少しています。

対前年影響額 **174 + 43 + 14 - 121 = 110億円**

コンセッションに関連する会計処理:

② 収益連動負担金

✈ 年度ごとの認定収益の額が1500億円を超過した場合には、

- 1500億円を超過した部分の金額の3%

(ただし、株主に還元可能な資金の6%以内。)

を、NKIACに対して当該年度の収益連動負担金として負担することになっております。

✈ 今期の収益連動負担金は、認定収益を約1800億円/年と想定し、6カ月分の5億円計上しています。

対前年影響額 5億円

コンセッションに関連する会計処理:

③ 特別修繕引当

滑走路・誘導路・エプロンの特別修繕に要する費用の支出に備えるため、将来の修繕見積額に基づき当年度負担額を計上しています

✧ 特別修繕引当金の計上 (2016.4～2016.9)

将来の大規模な維持・補修工事等の修繕見積額に基づき、当期は12億円、費用計上しています

✧ 期首に計上すべき特別修繕引当金

運営開始時点で計上すべき特別修繕引当金が231億円と算定されたことから、これを負債計上し、併せて公共施設等運営権を相手勘定として計上しています

✧ 運営権（無形固定資産）の減価償却 (2016.4～2016.9)

公共施設等運営権は、コンセッション期間である44年間で減価償却をおこないます。当期は、3億円を減価償却費として計上しています。

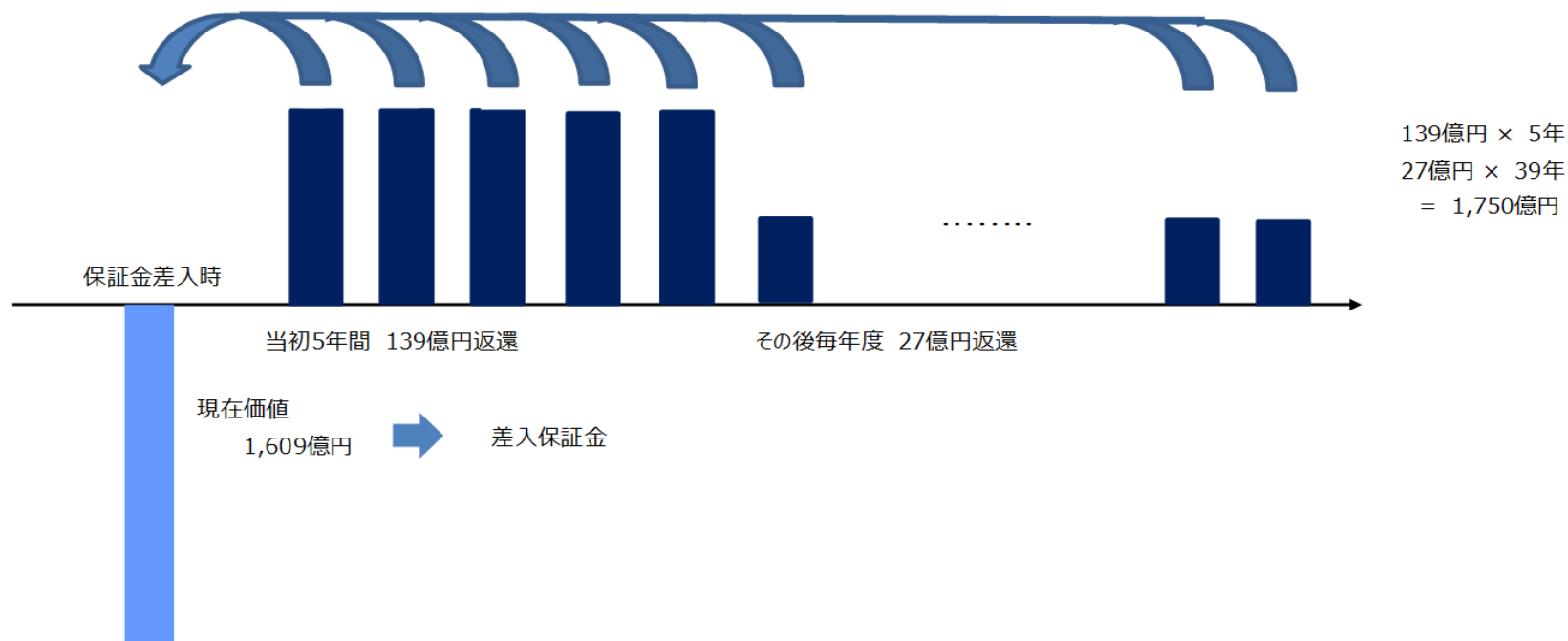
対前年影響額: 12 + 3 = 15億円

コンセッションに関連する会計処理:

④ 履行保証金

履行保証金の差入れ

- ✈ NKIACに対して、履行保証金として1750億円 差し入れていますが、今後の履行保証金の返還スケジュール（当初5年は139億円のキャッシュイン、その後毎年度27億円のキャッシュイン）をもとに、これを保証金差入時の現在価値に割引いた金額（1609億円）を差入保証金として計上しています。
- ✈ また、差し入れた金額と資産計上した差入保証金の金額との差額141億円は、公共施設等運営権として計上しています。



コンセッションに関連する会計処理:

④ 履行保証金 (2)

✈ 履行保証金の返還 (2016.4~2016.9)

当期、NKIACからの履行保証金70億円の返還がありましたが、このうち65億円が差入保証金の減となり、残り5億円については、NKIACとの契約上は無利息ですが、会計上の処理として受取利息を計上することになります

✈ 運営権（無形固定資産）の減価償却 (2016.4~2016.9)

公共施設等運営権は、コンセッション期間である44年間で減価償却をおこないます。当期、2億円減価償却費を計上しています。



✈ 事業開始当初は、損益上プラスの影響に働き、事業期間の終盤には逆にマイナスの影響が出ることとなります

対前年影響額: 2 - 5 = △3億円